向日葵。

陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
向日葵。

【Ｎコード】
Ｎ３９０５Ｐ

【作者名】
陽

【あらすじ】
余命３ヶ月といわれ、１日を無駄に過ごしてきた露木　利亜（Ｒｉａ　Ｔｈｕｙｕｋｉ）。彼の余命が残り１ヶ月になった頃、隣の病室に向日　葵（Ａｏｉ　Ｈｉｎａｔａ）が現れる。日向は彼が気に入り色々と関わっていく。そんな中、ある時日向は彼に向かってある提案をする。そこから、二人の話は始まる！！
ちょっぴりシリアスありの１０代の男の友情物語。
男子だからこそできる！！？
やろうと思えば女子にも出来るはず。

冷静で冷たい男子とお気楽で陽気な男子。正反対の二人は果たして
どうなるだろうか…！？

1　出会い

俺は元々身体が弱くて、よく入院してた。
でも退院するのも早かった。
小学生くらいからだろうか？入院する回数が増えたのは。
大体は風邪を拗らせたりして入院だった。
高校生にもなった今、前よりは身体が強くなったと思う。
だから、今回も早く退院できるとおもっていた。

だけど違った。
俺の肺にガンが見つかった。
前に言ったように、普通の人に比べると俺は身体が弱い。
だから俺は手術もできないのだ。
薬を使うと言う手段もあった。
しかし、副作用がひどいらしい。
俺の身体は薬さえも受け付けなかった

手術もできない。
薬も使えない。
俺は死を待つことしかできないらしい。
これからを考えると苦痛でしょうがなかった。
もう、未来に希望を持つのをやめよう。
心からそう思ってしまった。

そんな中、ある日主治医にとうとう告げられてしまった。
余命３ヶ月。
もう未来に希望など持っていないはずなのに、それを聞いて絶望を感じた。
もうそんなに死が迫っていたのか。神様は生きる時間に余裕をくれ

ないのか。
俺はこの日から、1日を無駄に過ごすようになった。
特に何をするわけでもない。
楽しいこともない。悲しいことも、嬉しいことも…つらいことも。
何一つ感じない生活をしていた。
ベットに寝そべり、だされたご飯を食べるだけの生活。
俺の顔に表情がなくなっていくのが、鏡を見なくてもわかった。
俺の顔をまさに無表情と言うんだな。
知る意味もないが。

医者に余命3ヶ月と言われ…2ヶ月が経った。
残り1ヶ月。
前のように何をするわけでもない。
ただ1日を無駄に過ごす生活。
このときになると…もう死に対する恐怖などなかった。
天国はどうなんだろう？とか考えるのが普通だろうが、そんなことも考えない。
ボーと過ごしていた。
そして　、今日も変わらず過ぎていくだろうと思っていた。
何もなく…。

ガララッ
突然病室のドアの開く音がした。
どうせ主治医だろうと思い、首だけ動かしてドアの方をみると…見たことのない奴がいた。
「今日から、隣の病室になる日向葵や！よろしゅうな♪」
笑顔で握手を求めてきた。俺と同級生くらいだろうか？
久しぶりに、興味をもった。
「…露木利亜。よろしく」

自然と俺も挨拶をしていた。
何故かはわからない。…きっと挨拶はしようと俺の心と手が勝手に動いただけだな。
隣がこんなに明るい奴なのか。
うるさくないといいけど。

葵に会って、俺の生活は変わることを…この頃の俺はまだ知らない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3905p/

向日葵。

2010年12月9日04時41分発行